

ふる里の歳時記 (119)

写真と文：厚川 小一（エッセイスト）



枯野を吹く

すれ違う犬そらぞらし大枯野

厚川小一

月かはつきりしないが、山本健吉氏の推測では「上のみなつき（神無月）に対する「下のみなつき」をいうのが正しいという。「霜月」は今の月別歳時記では、十二月初めに入れられている。暦と天候（特に寒暖）が合致しないのは、物を書く上で引掛かることが非常に多いのである。

小春日の母の心に父住める

深見けんじ

十一月七日は「立冬」であるが、近年は暖冬ぎみであり寒い日は、ずっと先になり「小春日和」という暖かい日が続くことがある。——天高く馬肥ゆる秋——と昔から言われてきた。私の夏バテもこのあたりで何とか戻ってくれ、といいのだが。あの忌まわしい猛暑からやっと抜け出し、気づいてみると、すでに秋の彼岸、稲穂はさらさら鳴り出していた。

その九月下旬、早くも白菜の植え付けが見られるようになった。白菜農家はとにかく辛抱強くなければできない。作付けはやや減少してきたが、あの厳寒（げんかん）の中での収穫は、なかなか耐えられるものではない。何より気になるのは暖

冬に出会うと極端な安値となり、丸々と肥った白菜が畑に置き去りになることもある。一月中旬から二月下旬まで「邑美人」のブランド名で出荷される。

大根干す清貧といふ白きもの

峰尾北鬼

初冬の風物詩であった大根干しが、私たちの周りで見られなくなった。沢庵大根は冬の食卓になくはならぬ漬物で、どの家庭でもたくさん漬けた。私などずっと梅干しの日の丸弁当だったのが、冬から沢庵大根に変わったのである。——今日はおめんちの弁当のおかずはなんだ——今日はすごいぞたまごの厚焼きだ——そして昼時——なんだおめんちのたまごはかりかり音がするな——こんな会話、そして貧しい中にも、たのしい昼食であった。

現在、大根は乾燥済みのものが店頭に出るので、漬ける家はあるようで結構完売している。

箒目の集つてゐる焚火かな

星野立子

焚火には多くの思い出が残つ

ている。山林の中で育った私たちは落葉を庭に持ち込んだり、畑隅に浅い穴を掘り、たつぷり落葉を積んで燃やし暖を取った。子どもだけでは危ないが、上級生にいいリーダーがいて風の少ない冬休み中には、どこかで煙が昇っていた。焼き芋も焼き栗もたくさん焼けた。その焚火の輪の中にあそんだ仲間、今健在なのは、ついに私一人だけになってしまった。

昭和十六年、太平洋戦争勃発直前のことだと覚えているが、JOAK（NHK東京放送局）からラジオ歌謡「たき火」が新しく流れ出した。——あたろうか あたらうよ——と子どもたちが元気になる季節にぴったりの歌であった。しかし、焚火は敵機の目標になるし、落葉は貴重な資源であり、もったいないということ、軍当局からクレームがつき、放送は三日で止められてしまった。

そして戦後、松田トシ・安西愛子によって再放送されるようになったが、今度は消防庁から子どもの焚火は、防火教育上差し支えると、再びクレームがついてしまった。かくして焚火の輪も、子どもの輪も消えてしまったのである。

ひとりごと From editors

▼月日の流れは早いもので、広報の編集に携わって半年がたちました。毎月の編集だけでなく、ふだんの仕事もいくらか余裕を持ってできるようになったと思います。まだ半年しかたっていませんが、これからも、皆さんに大切な情報をわかりやすく伝えられるように心掛けていきたいと思っています。▼最近、気温が下がってきましたね。その影響かこのごろ鼻水がひどいです。これを書きながらもティッシュを手放せません。これから仕事が忙しくなるので、体調管理をして風邪を引かないように注意しないと…。皆さんも風邪を引かないように、うがいや手洗いをしっかりと予防しましょう。（清）



色鮮やかなコスモス畑（下中野）



Photo 広報担当者

広報おうら

ORA TOWN Public Relations

平成22年11月号 No.530

毎月1日発行

編集・発行 邑楽町役場企画課

〒370-0692（住所記入不要）

☎ 0276-88-5511（代表）

☎ 0276-47-5007（企画課直通）

☎ 0276-89-0136

URL <http://www.town.ora.gunma.jp>
E-mail koho@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト

2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。

携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>